

コンサルテーション事業報告

事業の名称	教育困難校における学校 経営相談・学習支援事業	事業代表者	清水 禎文
対 象	高等学校教員 中学校教員 高校生 中学生 教育委員会		
目 的	教育格差が社会問題としてクローズアップされる今日、学校の小規模化、教育接続における段差、あるいは生徒の学力や生活態度などのため、さまざまな課題を抱えている学校が少ない。本事業においては、これらのいわゆる教育困難校、学習困難校における学校経営、教員サポート、学習支援などを支援することを目的とする。		
実 施 日	不定期	実施回数	
		月 2 ～ 3 回程度	
実 施 場 所	大学 学校 教育委員会 など		
主なスタッフ	宮腰英一	人 数	
	青木栄一 他大学院生	5 名程度	
スタッフの 活 動 内 容	<p>○教育困難校における学校経営支援 宮城県 A 高校の「A 高校を考える会」(7 月、11 月) に出席</p> <p>○高校における学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県 A 高校における基礎学力定着プランに参加し、学習支援活動を行う (4 月、7 月、12 月)。 ・宮城県 B 高校における「総合的な学習の時間」への参加 (7 月、12 月)。 ・宮城県 C 高校における学校設定科目の相談 (月 1 回程度) <p>○東北大学教育指導者講座におけるワークショップ (8 月)</p>		

<p>事業実施内容</p>	<p>○教育困難校における学校経営支援</p> <p>宮城県 A 高校は周辺地域に位置し、年々入学者数が減少してきた。学級数が削減されたものの、入学者は募集定員を満たしていない。この A 高校では、5 年前より学校関係者、PTA、周辺の中学校長、地元自治体の首長・議長・教員委員長、地元企業経営者などから構成される「A 高校を考える会」を開催している。年 2 回開催されるこの会に出席した。また高校長と学校経営に関する意見交換を行った（年 5 回）。</p> <p>○高校における学習支援活動</p> <p>宮城県 A 高校における基礎学力定着プラン（4 月、7 月、12 月）に参加した。この学習プランで使用される教材は、一昨年に高校側と相談の上、大学側で作成したものである。今年度も、この教材を使用し、問題の改善を検討した。</p> <p>宮城県 B 高校は、学校の教育目的に合わせ、特色ある「総合的な学習の時間」の開発に取り組んでいる。この「総合的な学習の時間」のカリキュラム及び教材開発について、担当教員と意見を交換した。また学習の最終段階で行われる報告会に出席した。</p> <p>宮城県 C 高校は、今年度より学校設定科目「国際理解教育」を開設した。この科目のカリキュラム設計およびアセスメント方法について、月 1 回程度の相談事業を行った。</p> <p>○東北大学教育指導者講座におけるワークショップ</p> <p>東北大学教育指導者講座に講師として出席し、ワークショップに参加した。ワークショップは、指導者講座参加者全員（70 名）が勤務校における教育上の課題を持ち寄り、検討するものであり、4 日間のべ 12 時間行われる。このワークショップにおいて、各学校の教育事情を聞き、全体討議に加わるとともに、個別相談にも応じた。</p>
---------------	---